

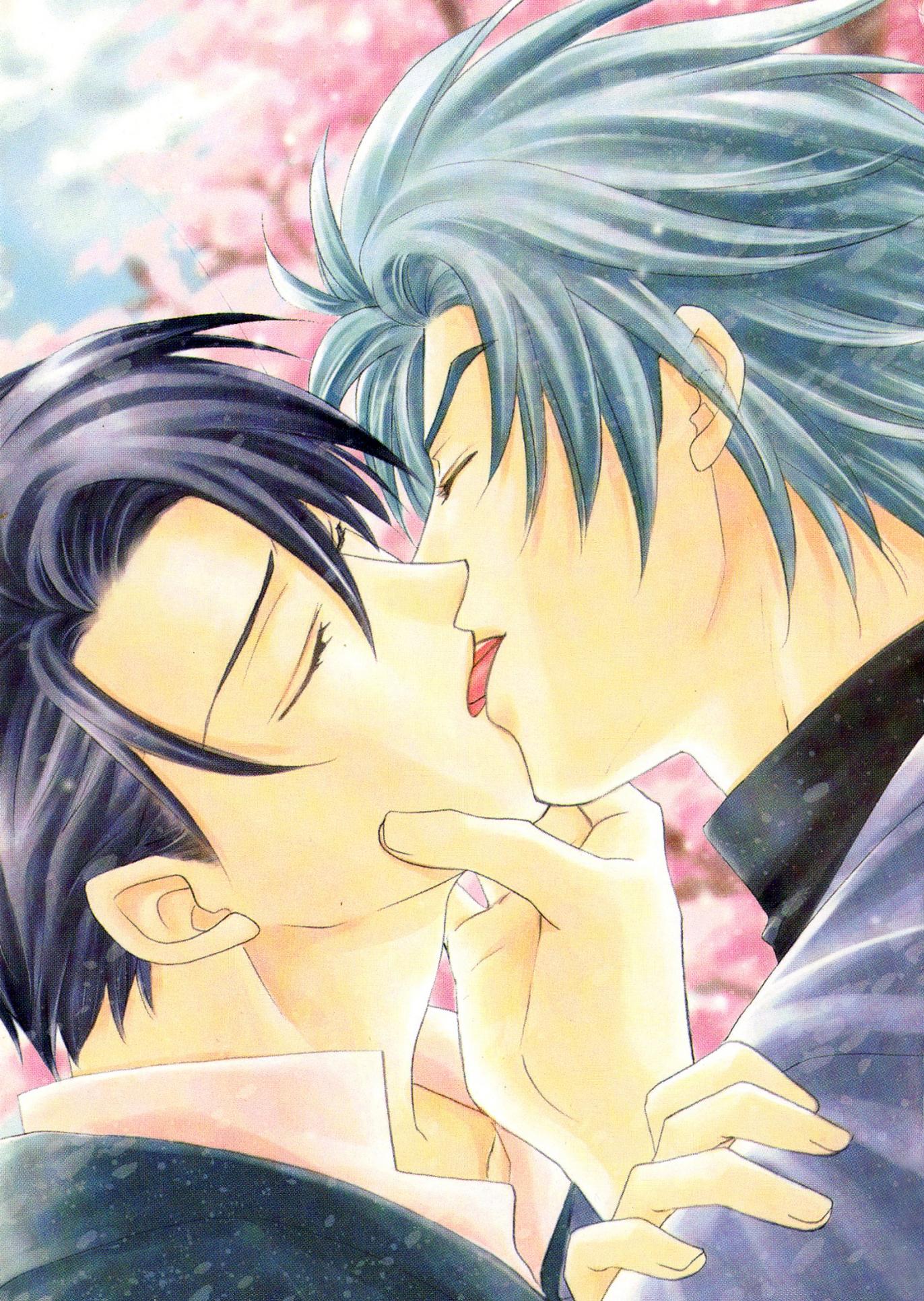
# 美しい凶器

HEAVENLY WEAPON

早瀬響子



Story Kyouko Hayase + Illustration Fuhri Misasagi



美しい凶器

《立読み版》

早瀬 響子

イラスト みささぎ 楓李

「……！」

寺の境内で、彼に再会した時、日下部忍は思わずその場に立ちつくしてしまった。  
くさかべしのぶ

早川一馬は、その時、大勢の弔問客から少し外れ、一人佇んでいた。一月半ばの今日、一馬の母の十三回忌が、都心にあるこの寺でもうすぐ行われる予定なのだ。

広い境内には、すでに、現職の国会議員である彼の父、早川義郎よしろうの権威を示すかのように、親族よりはるかに多く、政財界やマスコミ各社から関係者がつめかけている。早川の公設秘書である忍は、彼らの案内のため、先にここに来ていたのだ。

客足も一段落つき、忍はちようど、近づいてきた友人でもある新聞記者の倉田くらたと、笑顔で言葉を交わし、別れたところだった。倉田を見送っていた時、ふいに彼の姿が目飛び込んできたのだ。

「——一馬、さん……」

ごく自然に、その名が唇からこぼれた。一馬の方はもう少し前から気がついていたらしい。切れ長の瞳で、食い入るようにこちらを見つめている。

二人は、弔問客の一団から少し離れて向かい合っていた。彼の視線を受け留めたとたん、忍はズキン、と、胸が痛みを伴って大きく高鳴り、白い頬が紅潮するのをはつきりと感じてしまった。しなやかな身体が震え、思わず、気づかれないよう小さくかぶりを振る。

——いけない、こんなことでは……——

これから自分は、するべきことがたくさんある。長い間、それを実行する機会を待ち続け、今ようやく、その時が来ようとしているのだ。

だからこそ一年前に、自分は彼の父親の愛人だ、と告白するという、彼をひどく傷つけるようなやり方で別れを告げ、その想いを断ち切ったつもりだったのに。

けれど、懸命に言い聞かせているにもかかわらず、忍は一馬から目をそらすことがどうしてもできないでいた。おそらく、自分に対して怒っているからだろうが、何故か、熱さを伴っているような、その強い視線に捕らえられ、身動きがとれなくなってしまう。

彼の服装は、確かに、母親の法事の席にふさわしいものではなかった。わざとルーズにはいた、色あせたジーンズにスニーカー。バイクで来たためか、少し厚手のカーキ色のブルゾンを着て、その下にくすんだオレンジのTシャツと、革ひもの銀のペンダントをつけている。よく似合っていたが、喪服を

着た弔問客ばかりがつめかけているこの場には、いかにも不釣り合いだった。

だが、当人はまだまったく自覚していないようだが、明らかに浮いた存在であるにもかかわらず、臆せずたった一人で、周囲を睨みつけるように立っている一馬には、他の者とは違う、若い獣のような、むき出しの活力に満ちた存在感がある。こうして離れて立っている自分にも、それが伝わってくるようだった。他の客たちも、眉をひそめながらも、思わず彼を見つめてしまっている。

背は、一年前に別れた時よりも少し高くなり、一八〇センチをわずかに超えるほどになっていた。自分よりも九つ年下の十九歳のはずなので、まだまだ伸びるかもしれない。体格は、まだそれについていかず、肉づきは薄い、その代わりに骨が太く、未熟な中にも強靱さが感じられる。四肢はまだ少年らしく、ひよろりと長く、手のひらや足首から先が、身体に比べて大きかった。

顔立ちも、早川ほどではないが、よく見るとかなり整っている方である。しかし父親とは違い、きつくり上がった切れ長の瞳と、少し厚めの唇がいかにきかん気な感じである。もともと茶色の髪を、今はさらに脱色し無造作に流しているので、なおさらその印象が強い。

そんな一馬の姿を見ると、忍はどうしても、以前、彼とともに過ごした頃のことを思い出ししてしまう。それは、一馬が十一歳と十七歳の時で、自分が早川のもとにいた月日の中でも、ごく短い期間の

はずなのに、ふとしたことで、ひどく鮮明に脳裏によみがえってくるのだ。

初めて会った十一歳の時、一馬はむしろ小柄な少年だった。父親の選挙事務所のソファアームの上で、きよとんとした目で彼がこちらを見ていたのは、ほんの少し前のような気がするのに……。

「――日下部さん、早川先生がそろそろご到着だそうです」

その時、寺の職員に後ろから声をかけられ、忍はようやく我に返った。一馬の耳にもそれは届いたよううで、何故かはっとした様子になり、それから今度ははっきりと睨みつけてきた。

※続きは製品版でお楽しみ下さい。

美しい凶器

《立読み版》

発行日 2011年9月23日

著者名 早瀬 響子

イラスト みささぎ 楓李

発行所 【MILK-CROWN】

株式会社水晶院

<http://www.milk-crown.net/>

(C) Kyoko Hayase 2011

※本著作物の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。